

備蓄食品に関する調査

約6割が「主に日常で使用し、災害時にも使える食品」を備蓄している
備蓄食品ランキングは1位「カップヌードル」、2位「サバ缶」、3位「ツナ缶」

共通ポイントサービス「Ponta（ポンタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、「備蓄食品に関する調査」（実施期間：2024年9月9日～9月13日）について、結果をご報告いたします。

【調査結果】

・ TOPICS①

約6割が「主に日常で使用し、災害時にも使える食品」を備蓄している。ローリングストック実践率は64.8%

・ TOPICS②

備蓄食品ランキングは、1位「カップヌードル」、2位「サバ缶」、3位「ツナ缶」

・ TOPICS③

「南海トラフ地震臨時情報」発表によって備蓄行動に影響を受けたのは約3割。特に20代、30代の若年層に備蓄意識の高まりが見られた

【調査結果詳細】

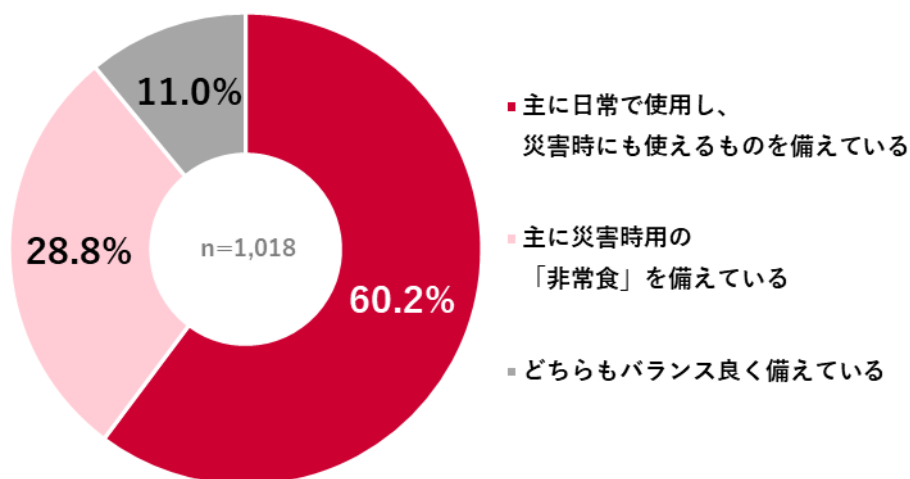
■TOPICS①

約6割が「主に日常で使用し、災害時にも使える食品」を備蓄している。ローリングストック実践率は64.8%

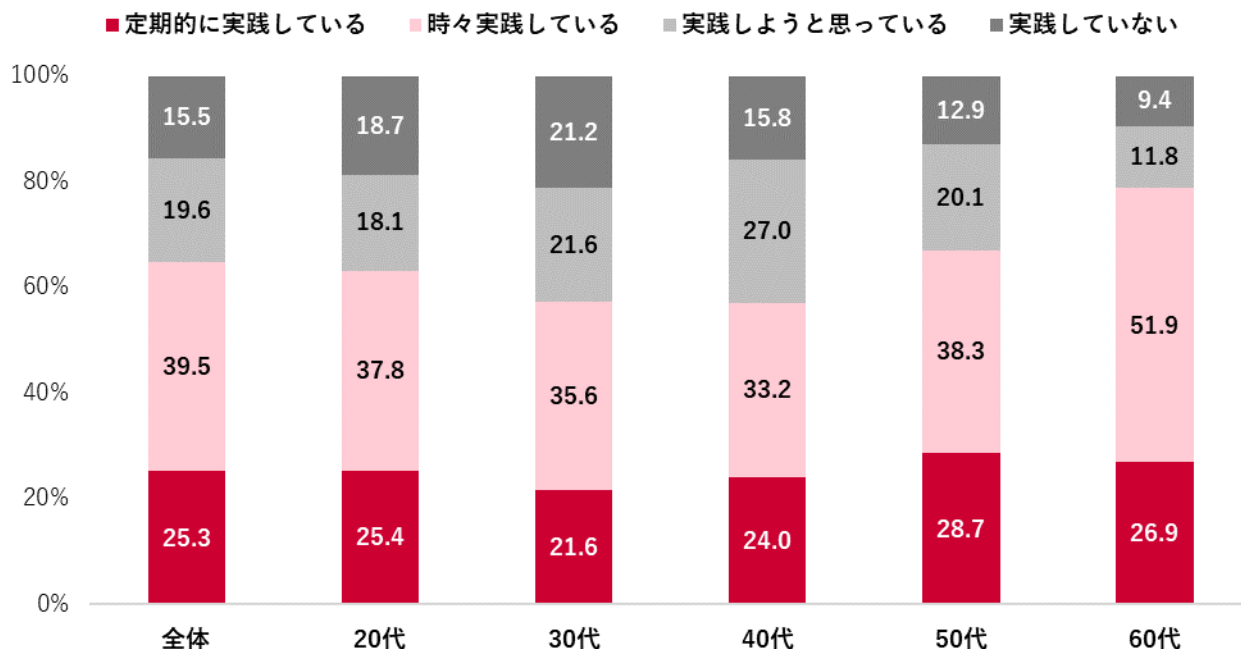
食品の備蓄について、「主に日常で使用し、災害時にも使えるものを備えている」が約6割を占め、主に災害時用の「非常食」を備えている人は約3割だった。ローリングストックの実践率は、全体で「定期的実践している」(25.3%)と「時々実践している」(39.5%)を合わせて64.8%だった。年代別で見ると、60代では約8割が実践しており、他の年代と比較して最も高い。

備蓄している食品の種類は、「飲料水」が80.6%でトップ、次いで「レトルト食品」「缶詰食品」「カップ麺や袋麺」がそれぞれ約6割で続いた。また、備蓄量は「食品」では「3日分以下」が最も多く約5割、「飲料水」では「3日分以下」「約1週間分」が約4割ずつだった。

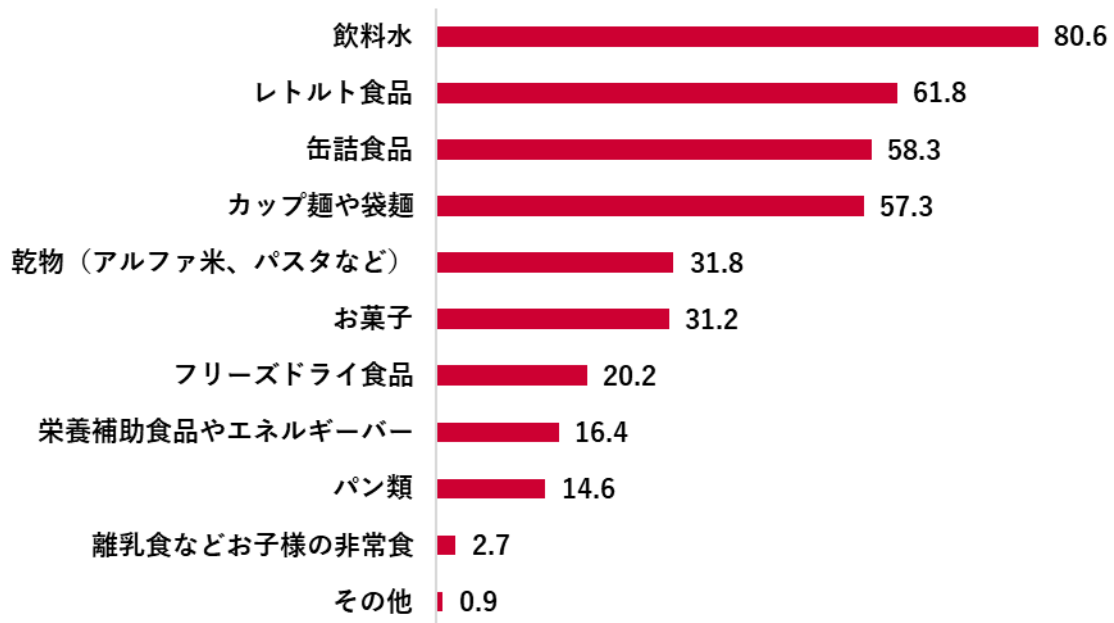
▼食品の備蓄について



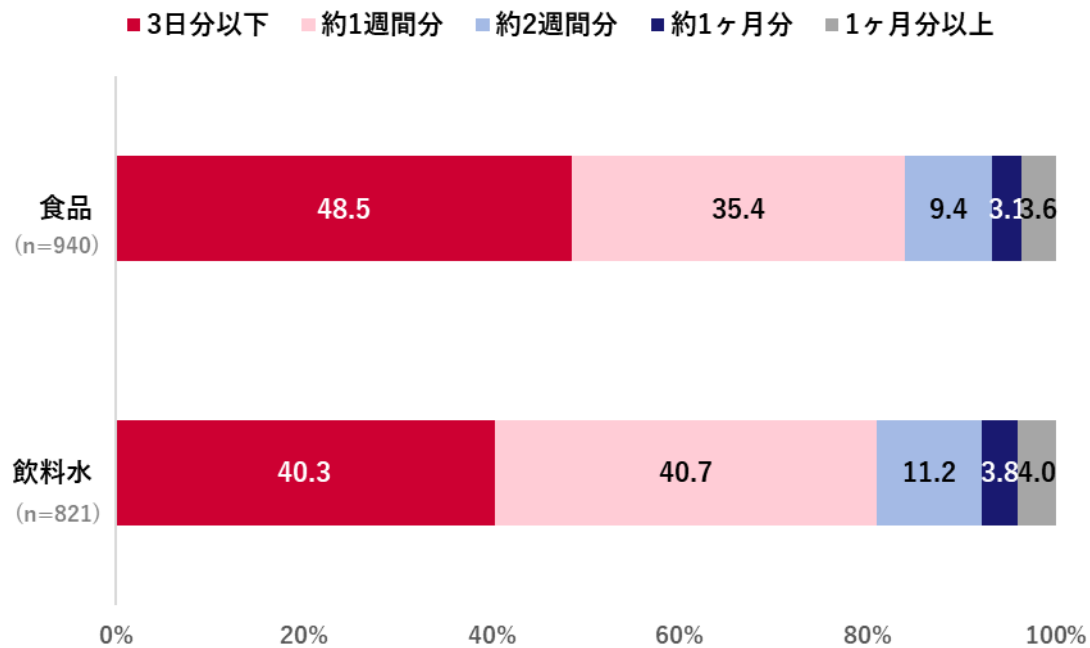
▼ローリングストック実践率 (%) (n=1,018)



▼備蓄している食品の種類 ※複数回答 (%) (n=1,018)



▼備蓄量



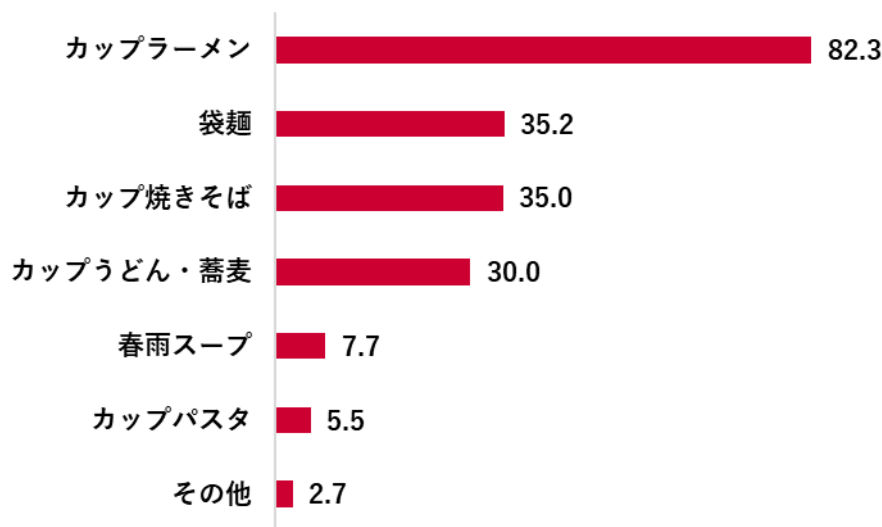
■TOPICS②

備蓄食品ランキングは、1位「カップヌードル」、2位「サバ缶」、3位「ツナ缶」

備蓄している食品をカテゴリーごとに聴取した。カップ麺や袋麺では「カップラーメン」、缶詰では「魚の缶詰（サバ、ツナなど）」、レトルト食品では「カレー」がそれぞれ1位となった。さらに備蓄している商品を自由回答で伺ったところ、全体で「カップヌードル（日清食品）」が156票を獲得し1位だった。次いで、「サバ缶」が132票、「ツナ缶」が129票で上位だった。最も自由回答数が多いカテゴリーは「魚の缶詰」で300票超だった。

▼備蓄しているカップ麺や袋麺 ※複数回答（%）（n=583）

（TOPICS① 備蓄している食品の種類の設問で「カップ麺や袋麺」を選択した人に聴取）



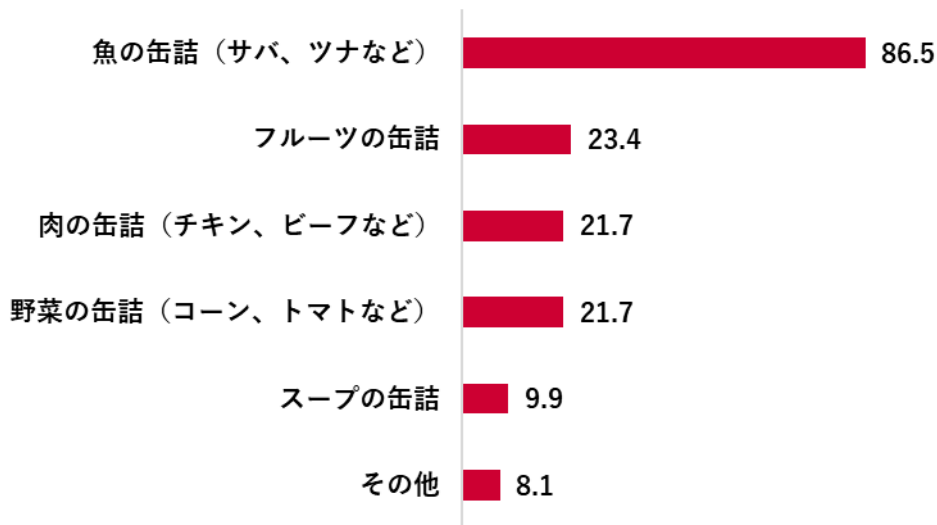
▼【カップラーメン】のランキング ※自由回答 カッコ書きは企業名（以降のランキングも同様）

カップラーメンのランキング		
順位	名称	票数
1位	カップヌードル(日清食品)	156
2位	麺づくり(東洋水産)	8
3位	チキンラーメン(日清食品)	7
4位	ラ王(日清食品)	6
4位	ごっ盛り(東洋水産)	6

有効票数：218件

▼備蓄している缶詰 ※複数回答 (%) (n=594)

(TOPICS① 備蓄している食品の種類の設定で「缶詰食品」を選択した人に聴取)



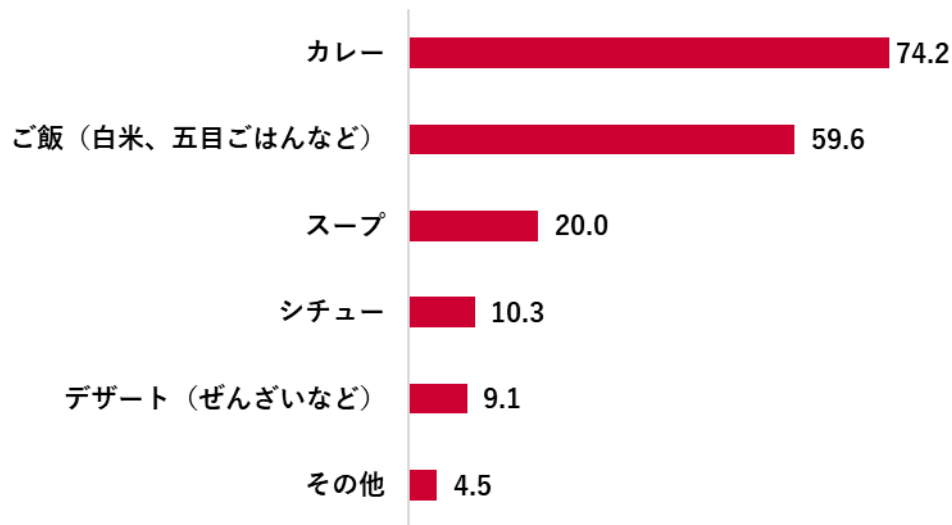
▼【魚の缶詰】のランキング ※自由回答

魚の缶詰ランキング		
順位	名称	票数
1位	サバ缶	132
2位	ツナ缶	129
3位	イワシ缶	26
4位	サンマ缶	12
5位	サケ缶	2
5位	マグロ缶	2

有効票数：304件

▼備蓄しているレトルト食品 ※複数回答 (%) (n=629)

(TOPICS① 備蓄している食品の種類の設定で「レトルト食品」を選択した人に聴取)



▼【レトルトカレー】のランキング ※自由回答

レトルトカレーのランキング		
順位	名称	票数
1位	ボンカレー(大塚食品)	31
2位	無印良品	17
3位	バーモントカレー(ハウス食品)	12
4位	咖喱屋カレー(ハウス食品)	8
4位	銀座カリー(明治)	8

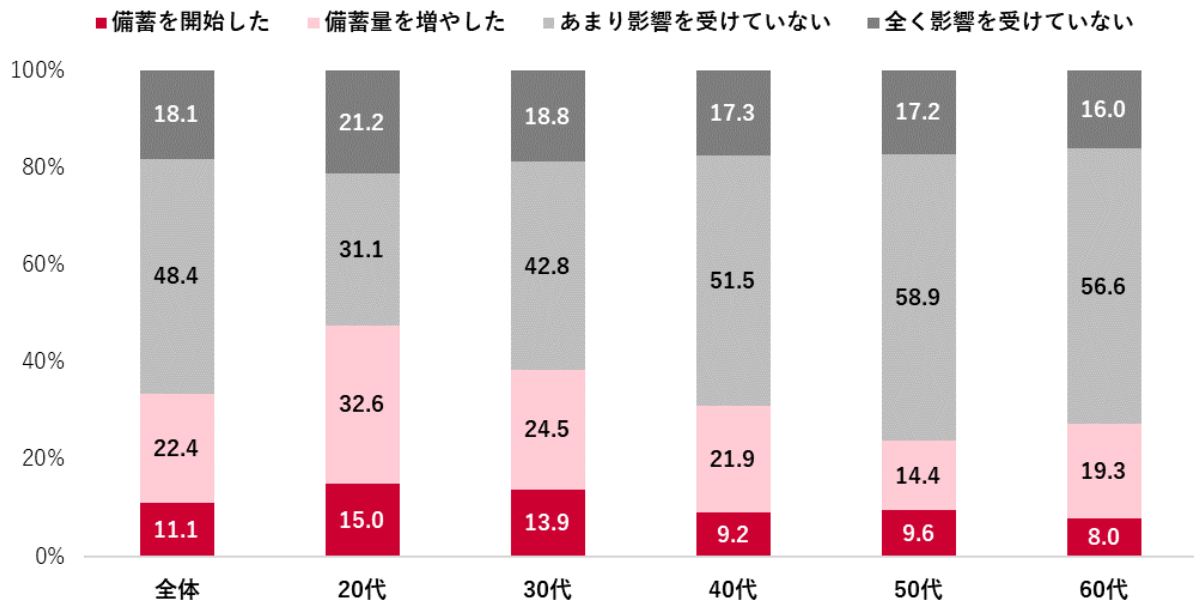
有効票数：134件

■TOPICS③

「南海トラフ地震臨時情報」発表によって備蓄行動に影響を受けたのは約3割。特に20代、30代の若年層に備蓄意識の高まりが見られた

2024年8月に気象庁から南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されたことを受け、水や食品の備蓄を開始した、または備蓄量を増やしたかを聴取した。全体の約3割が「備蓄を開始した」「備蓄量を増やした」と回答し、臨時情報の影響を受けた様子が伺えた。特に20代の約半数、30代の約4割において、備蓄意識の高まりが見られた。

▼2024年8月の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を受け、水や食品の備蓄を開始した、または備蓄量を増やしたか



以上

【調査概要】

調査方法 : インターネット調査

調査期間 : 2024年9月9日～9月13日

パネル : 「Pontaリサーチ」会員

(Ponta会員で「Pontaリサーチ」の会員登録をいただいている方)

調査対象 : 国内在住20～60代の防災備蓄をしている方

有効回答数 : 1,018名

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です

【引用・転載の際のクレジット表記のお願い】

調査結果引用・転載の際は、“「Pontaリサーチ」調べ”とクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

■関連 URL

株式会社ロイヤリティ マーケティング マーケティング詳細紹介サイト：

<https://biz.loyalty.co.jp/>

公開レポート（自主調査結果を掲載）：<https://biz.loyalty.co.jp/report/>

公開データ：<https://biz.loyalty.co.jp/lp/publicdata/>

コラム：<https://biz.loyalty.co.jp/column/>

※報道関係者の方は、メディア関係者限定公開のお問い合わせ先
広報部にご連絡をお願い申し上げます。